

図書館と県民のつどい埼玉 2009



平成21年11月28日(土)に浦和コミュニティセンターで、「図書館と県民のつどい埼玉2009」が開催され、合わせて1,730名の方が参加されました。午前の部の記念講演は、詩人の工藤直子氏をお迎えし、「うたが生まれるとき」と題してお話いただきました。たくさんの詩を読んでいただき、笑ったり、ほろっとさせられたりのあつという間の素敵な時間でした。その一部をご紹介します。(詳しい内容は埼玉県図書館協会のホームページをご覧ください。)

～工藤直子氏の講演録から～

「詩をどう読んだらよいか」とよく聞かれますが、まず自分自身が好きなものを読んでほしいです。主婦としてとか、母としてとか、教育者としてとか、読み聞かせグループの一人として…とかの自分の肩書きをはずして、好きなものを見つけてほしい。

好きなものをひとつ見つけたら、その詩は出会ったその人自身の作品だと思っています。ですから、好きな詩と出会ったとたんに、あなたは詩人です。

「なんだか知らないけど、これ気に入っているのよね」という詩があって、「くどうなおこ」と書いてあったら、安心して吹聴しまくってください。

「この詩いいでしょ。これ私が書いたの。ちょっと仕事で忙しいから、工藤直子に言いつけて書かせたの。これ私の作品！」 だってその通りでしょ。私はそう思っています。

「好きだよ」っていつてくれる詩も、読んでくれる人がいなきゃ、ただの紙の束です。でもご縁があって、手に取っちゃった。よくあるでしょ、こうしてぱらぱらと開けてみる。そのときがご縁ですよ。たまたま開いたページで「あらら！」ってなったりすると、初めてこれが紙の束でなくなる。読んでくれる人が来たから。

そのとき、たぶん読む人は、お目目で一粒一粒、文字を食べるように自分の中に文字を入れてるはず。それはまるでおいしい食事のように…。ゴクンって飲んで内側に入っていくときに、自分の中の寂しさとか、つらさとか楽しさとか探し出せない、見えなかったものが、

つんつんと押されるんですね。例えばカーテンのひもみたいにパンパンで引っ張られると、ペアってそこが出てくるから、思わず泣く、思わず笑うってのが出てくる。だからもう、正真正銘、その瞬間、その詩はその人が作ったんですよ。ね、納得でしょ。

それで、もしも誰かに聞いてもらおうとしたら、それは「聞かせてあげる」ではなくて「ねえねえねえ、お願い！聞いてくれると嬉しいなあ」みたいな感じで、小さい人に向かって、やっつけてくださると嬉しいです。



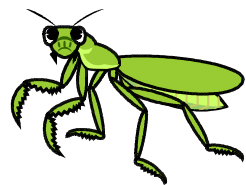
午後は4つの分科会(読み聞かせ講座等)や製本の実技、展示等が行われました。こちらの詳しい内容についても、埼玉県図書館協会のホームページをご覧ください。

編集後記 年度変わりのこの季節は、これまで出会った人のことが思いだされます。これまでの出会いと新しい出会いに感謝…。(0)

編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のホームページ 「子ども読書支援サービス」
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5
☎ 0480(21)2659(代) fax 0480(21)2791



子ども読書支援情報誌

しえん

Shien 第9号

子どもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)するそんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

平成22年3月15日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

《目次》

私の願い 学校図書室にもっと本を!!.....1
連載:おはなし・読み聞かせ実践講座⑨.....1
連載:子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介⑨.....2
新聞・雑誌クリッピング担当から.....2
ブックリスト担当から.....3
インターネットからの情報収集担当から.....3
図書館と県民のつどい埼玉2009.....4

私の願い — 学校図書室にもっと本を!!



学校図書室の役割って、何でしょうか? 学校の図書室には子どもたちが読みたい本が少ないと思います。何人かの常連の子どもたちはいるものの、図書室はほとんど調べ学習の部屋のようになっています。もちろん調べ学習は大切な授業の一環ですが、図書室は、まず、子どもたちが読みたい時に読める本が置いてある場所であってほしいです。

ところが、現状では予算は大変少ないので、子どもたちに読んでもらいたい本は、毎年リストにあげた内のほんの一部しか購入できません。子どもたちの「本離れ」を危惧して、全国的に読み聞かせなどの運動が盛んになっている一方で、「学校図書室の図書費がとても少ない」というこの現実。

これは大人たちが『子どもと本との出会い』の機会を取り上げているように思いませんか? 私はボランティアとして、子どもたちに素敵な本との出会いの橋渡しをしてあげたい。紹介するだけでなく、気軽に本を手にとれる環境を用意してあげたい。そのためにも、学校図書室にもっと本を!そして余裕のある図書費を回していただけたら!!と願っています。

ボランティアN

おはなし・読み聞かせ実践講座 ⑨

このコーナーでは「おはなしボランティア指導者」の皆さんによる、おはなし会を行う上でのワン・ポイント・アドバイスをリレーでお届けします



ストーリーテリングをはじめたいという方へ

まず、このお話を語ってみたい、ぜひ、人に聞いてもらいたいというお話が決まったら、

- ① **そのお話を何度も何度も読んでください。**
黙読したり、ブツブツ小声で言ったりして。決して、いきなり丸暗記はしないでください。そして、お話の全体の流れを頭に入れてください。主人公がどう動いて、お話がどう展開していくとか…。
- ② **次に少しずつ一段落ごとや、意味のかたまりで一、覚えていってください。**
この時ただひたすら、場面をイメージしながら覚えるのが肝心です。
- ③ **テキスト通りの言葉で覚えましょう。**
自分流に意味さえ同じならと、言葉を直していったらきりがありません。語りというのは粗筋を伝えればよいというものではありません。まずはしっかりテキスト通りに語ってみましょう。



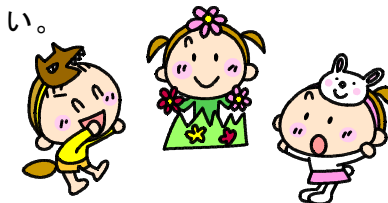
さあ、次には物おじせずに、**人前でどんどん語ってみましょう。**家の中で壁相手だけの練習よりも、人に聞いてもらう方がずっと効果があります。心をこめて語れば子ども達はじっと聞いてくれます。つかえてしまってもじっと待っていてくれます。聞き手の目がだんだんいきいきとしてくるのを見る時、語り手と聞き手が一つのお話の世界にすっぽり包まれて楽しむ時、幸せな時間を共有できた喜びでいっぱいになります。どうぞ、**ストーリーテリング**を楽しんでください。

★参考図書(はじめは、これらの図書の中から選ぶとよいでしょう)

- 『おはなしのろうそく』①-⑦ 東京子ども図書館編
- 『子どもに語る日本の昔話』全3巻 } こぐま社
- 『子どもに語るグリムの昔話』全6巻 }

この他にもいろいろあります。

斎藤洋子(おはなしボランティア指導者養成講座修了生)



さいたま市立大砂土小学校図書ボランティア 子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介 ⑨

1998年「みんなが集まる図書室にしたい！」少数の保護者の熱い思いから発足したボランティアも現在では3つのチームに分かれ、人数も着実に増えています。それでも埼玉県内一児童数が多いこともあり、まだまだ足りないくらいです。メンバーは皆、発足当時と同じ熱い気持ちを持ち続けがんでいます。学校側の理解や協力もあり、年を追うごとに活動内容も充実しています。

- ★ **図書室整備チーム** (41名) …本の修繕、整備
- ★ **ディスプレイチーム** (15名) …図書室内の装飾
- ★ **読み聞かせチーム “よみきかせ隊”** (43名)

- * 朝の読み聞かせ→各学年月1回 (8:20~8:35月・木) 終了後、反省会・情報交換
- * 業間読み聞かせ→毎週1回 (10:25~10:40月曜日) 終了後、反省会・情報交換
- * けやきの森まつり (校内・秋の文化まつり) でのおはなし会
- * 1年生おはなし会 (授業時間を使って 年1回)
- * 勉強会・講習会→毎年5・9月、その他必要に応じて開催
…その内、年に1回以上は講師の先生を招いてスキルアップをしています。
- * 図書便りの作成・配布 (年1回・年度末)

**1人でも多くの子どもたちに図書室に足を運んでもらい
1冊でも多くの本のページを開いてもらいたい!!**

大河内令子(さいたま市立大砂土小学校図書ボランティア)



Nice to meet you !

子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>
「子ども読書支援サービス」のページ

このコーナーでは私たち3グループの活動の一端をご紹介します。

きいぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

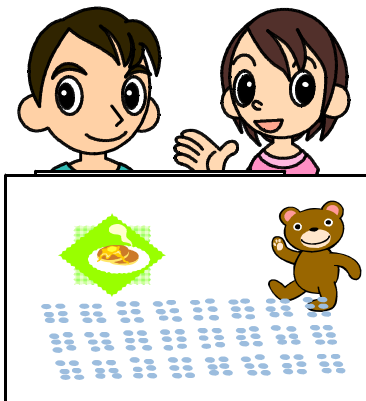
今回ご紹介するのは、**点字つき絵本**についての記事です。
(朝日新聞(2009.6.24 朝刊)・東京新聞(2009.7.2 夕刊)掲載)

点字つき絵本とは、絵本の文章に点字をつけ、挿絵には凹凸をつけて、触ってわかるようにしたもので、目の見える子も、見えない子も一緒に楽しめるようになっています。この本を初めて作ったのは、息子さんに絵本を読んであげたいと考えた、目の不自由なお母さん。大阪市西区にある「**てんやく絵本ふれあい文庫**」が、25周年を迎えたのを記念して、東京・銀座の教文堂で展示会が開かれました。一冊から始まった**点字つき絵本**が、今や**8,600冊**となり、全国津々浦々に貸出されているそうです。数年前から、各出版社が協力しあい、市販されるようになりましたが、コストが高いのが難点とあります。**点字つき絵本**が、アクセスのよい図書館にも置かれるようになるのは、まだ先のことでしょうか。

ちなみに、文庫でのいちばん人気は

『しろくまちゃんのホットケーキ』 だそうです。

仁昌寺(子ども読書支援ボランティア)



使えるブックリスト

ブックリスト担当から



「こんなときにこんな本を！」〈とき〉にはいろいろありますが、まずは〈季節〉から。春は新年度を迎える季節でもあります。春におすすめの「10分以内の本」のプログラムをご紹介します。タイムリーな本は、より子どもたちの心に届くことと思います。

低学年

『うみやまがっせん』(長谷川摂子文/大島英太郎絵/福音館書店)※
『うしはどこでも「モー!」』(エレン・スラスキー作/すずき出版)
※春の運動会に合わせていかがでしょう。
どちらもとびきり楽しい本です!

中学年

『アリからみると』(桑原隆一文/栗林慧写真/福音館書店)
『ポットくんとミズくん』(真木文絵文/石倉ヒロユキ/福音館書店)
虫たちがモゾモゾと動き出す春。自然への興味を促します。

高学年

『あたらしいぼく』(シャロット・ソロウ文/エリック・フレググアット絵/童話屋)
『いろ いきてる!』(谷川俊太郎文/元永定正絵/福音館書店)
上級生となる子どもたちに「自分とは?」と、ちょっぴり考えてもらおうのもいいでしょう。

中学生

『この世でいちばんすばらしい馬』(フェン・ジャホン絵/徳間書店)
『素直な疑問符』より「韓国語で」(吉野弘詩集)(理論社)
中学生のリストも…という子ども読書支援センターへのご要望にお答えしました。

いろいろな詩集の中から、季節やもう1冊の本に組み合わせて、1、2編選ぶのも素敵です。ひとつひとつの〈ことば〉が吟味された詩を、子どもたちにはたくさん読んであげたいものです。

このほか『いそびのおはなし』(降矢なな絵 グランまま社)〈低・中〉
『そんなこともあるかもね』(アヴィ作 フレーベル館)〈高〉の中から一話、というのもおすすめです。

佐々木(子ども読書支援ボランティア)

知っ得情報!



インターネットからの情報収集担当から

*** おすすめHP(ホムンツ)の紹介 ***

- ❑ **小学生への読み聞かせ ～ブックトーク編～**

<http://mainitiyomikikase.kids.coocan.jp/booktalk/index.html>

小学校の先生が、読み聞かせについて紹介しているホームページ。その中でブックトークの方法を教えてください。また、メインのページでは、月別・テーマ別の絵本を紹介しており、参考になると思います。

- ❑ **ブックトークの集い**

<http://www.aichi-pref-library.jp/event/booktalk171203/index.html>

愛知県図書館で行われたブックトークの集いについての記録。10代向きの本を紹介するブックトークが紹介されています。

この他に小学校や中学校で行われたブックトークの様子や感想が載っているページや、ブックトークを聞いた人や実践した人のブログも多数あります。

坂本(子ども読書支援ボランティア)

